

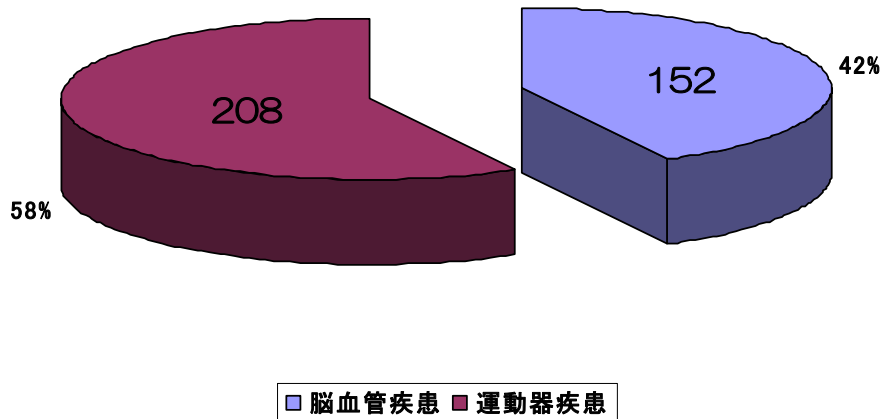
和仁会病院 回復期リハビリテーション病棟実績報告

平成25年4月1日から平成26年3月31日までの1年間に当院回復期リハビリテーション病棟に入院された患者(360例)について内容を分析したので、ここに報告する。

1. 対象者内訳 (n=360)

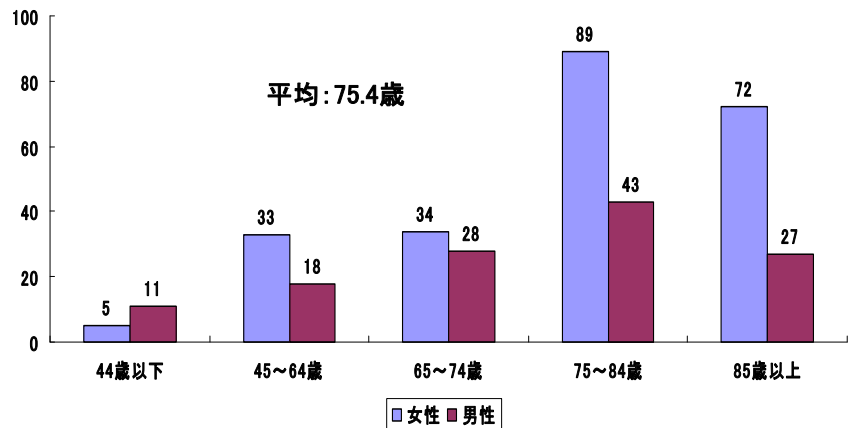
①疾患割合

※グラフ内数字は実数を示す



②年齢割合

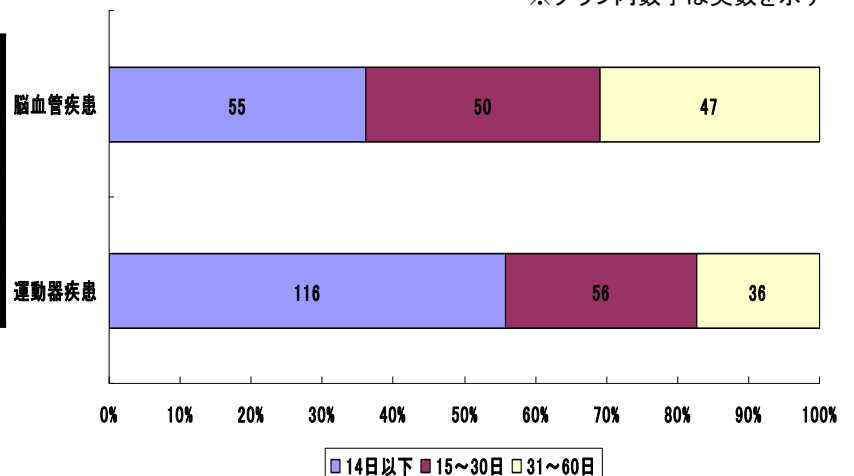
年齢割合	女性	男性
44歳以下	5	11
45～64歳	33	18
65～74歳	34	28
75～84歳	89	43
85歳以上	72	27
合計	232	127



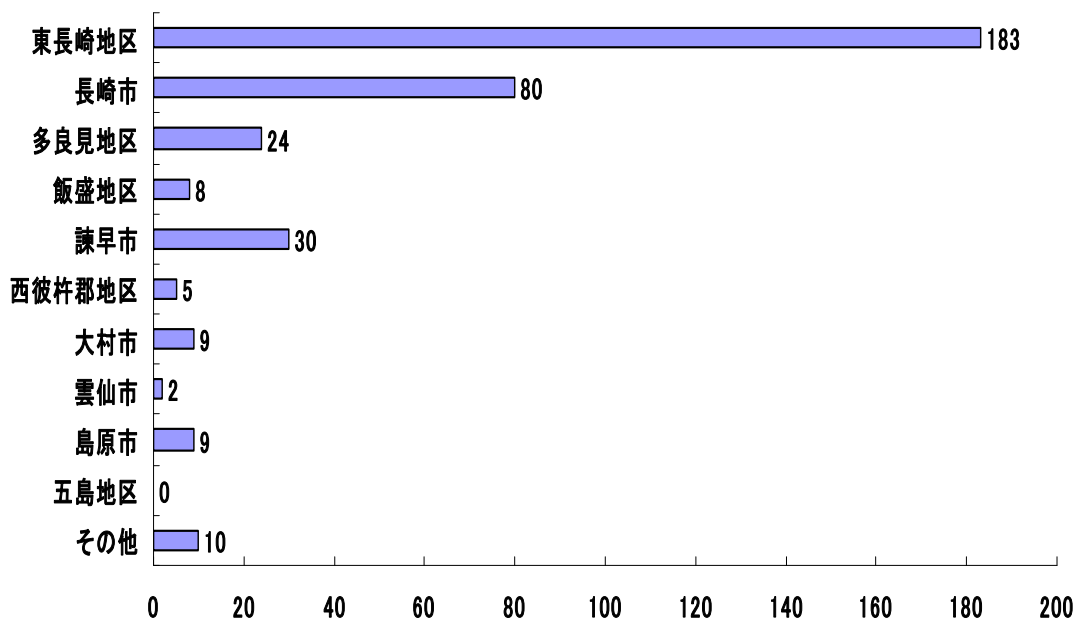
③入院までの期間

※グラフ内数字は実数を示す

	脳血管疾患	運動器疾患
14日以下	55	116
15～30日	50	56
31～60日	47	36
合計	152	208



④ご自宅の地域

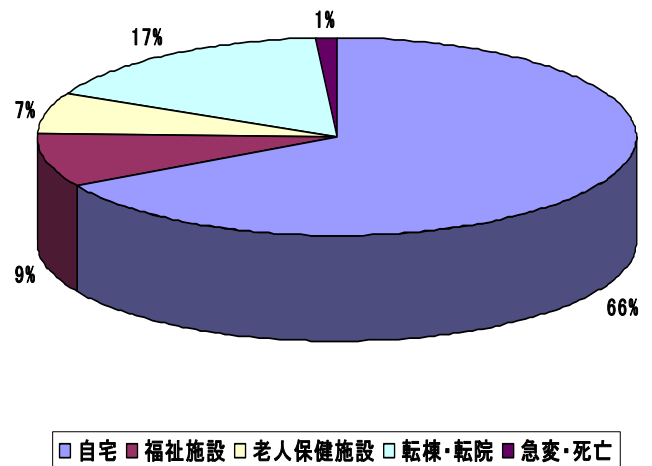


退院先	人数
東長崎地区	183
長崎市	80
多良見地区	24
飯盛地区	8
諫早市	30
西彼杵郡地区	5
大村市	9
雲仙市	2
島原市	9
五島地区	0
その他	10
合計	360

2. 実績報告 (実績報告は入院中の患者を除く n=285)

①退院先

退院先	人数	割合
自宅	190	66%
福祉施設	25	9%
老人保健施設	19	7%
転棟・転院	48	17%
急変・死亡	3	1%
合計	285	100%

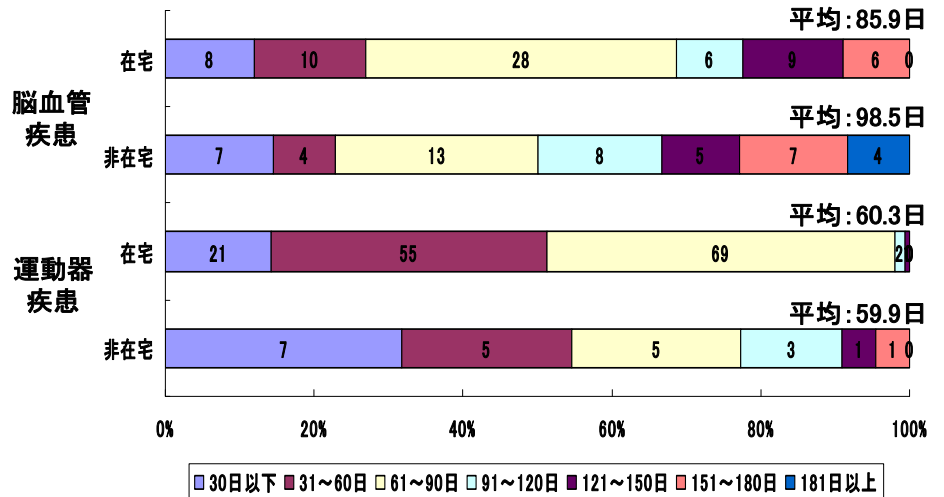


退院先は、自宅への退院が66%、『在宅』扱いとなる福祉施設への退院が9%であった。これら2つを合わせると在宅復帰率が75%という結果であった。

② 在院日数

※グラフ内数字は実数を示す

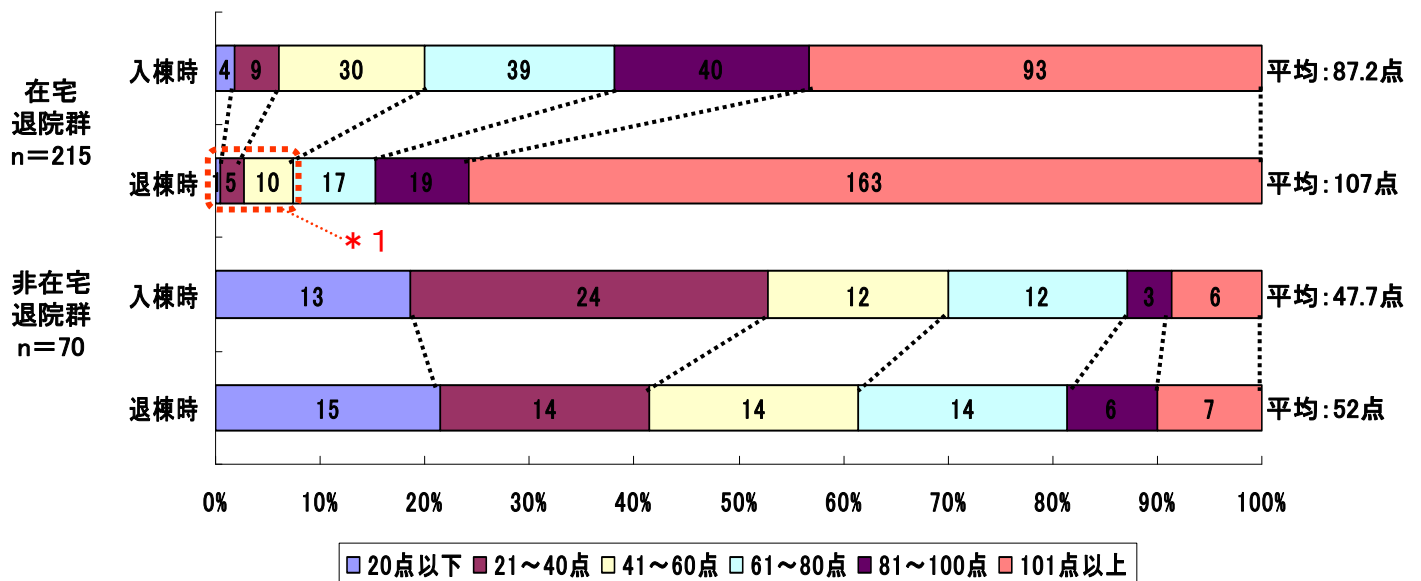
	脳血管疾患	運動器疾患
30日以下	15	28
31～60日	14	60
61～90日	41	74
91～120日	14	5
121～150日	14	2
151～180日	13	1
181日以上	4	0
合計	115	170



回復期リハビリテーション病棟の入院日数は、脳血管疾患で、高次脳機能障害がある場合は180日、高次脳機能障害がない場合は150日となっており、運動器疾患は90日となっている。当院では、脳血管疾患患者は90日以内の退院者が約61%で、運動器疾患は60日以内の退院者が約52%という結果であった。脳血管疾患の非在宅群では、入院日数の上限を超えた方がいたため、在宅群より平均在院日数が長くなったのも一つの要因として考えられる。

③ FIM指数の変化

※グラフ内数字は実数を示す



FIMとは、機能的自立度評価表 (Functional Independence Measure) の略であり、日常生活活動を7点満点の18項目 (食事・更衣・移動・排泄・理解・記憶など) で評価したもので、全項目完全自立の場合126点となる。

一般的に器具などを使用しての修正自立の場合6点と評価し、合計100点付近が在宅復帰の目安とされている。

退院先別のスコアでは在宅退院群が平均107点で非在宅退院群が52点と大きな差が見られた。

しかしながら、在宅退院群の中には60点以下の重度障害者 (介助必要者) 16例が含まれており、これらを在宅へ結びつけることができた。[*1]

④ 日常生活機能指標の変化

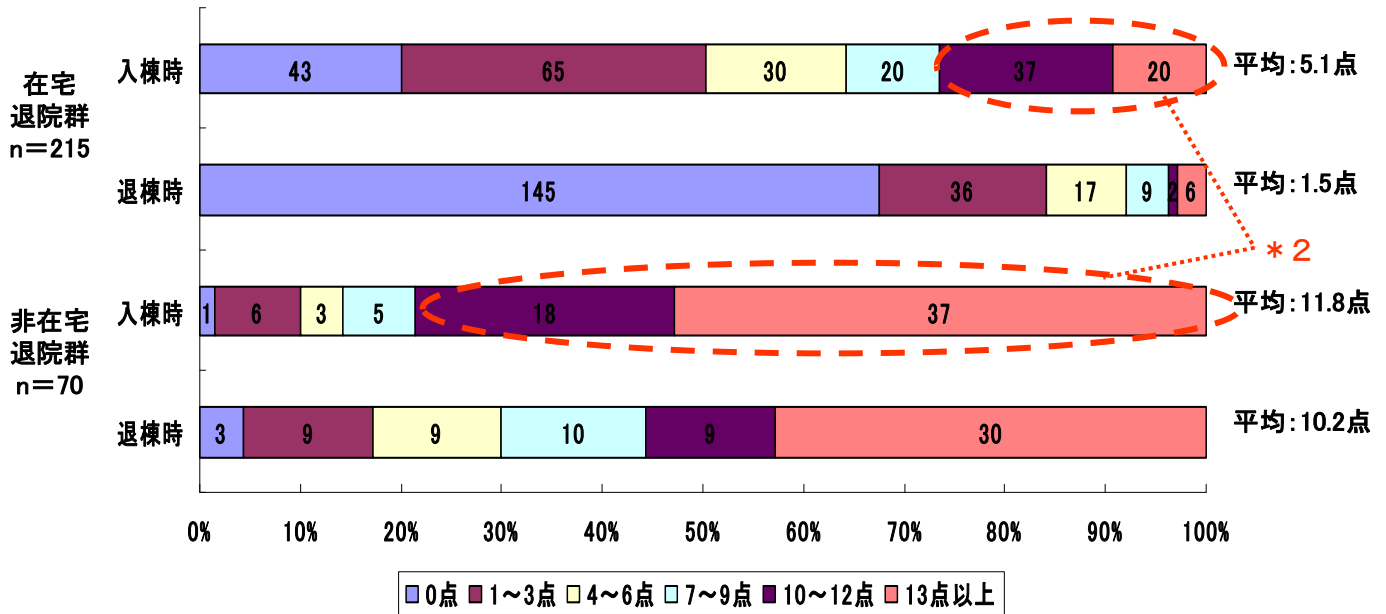
日常生活機能指標は看護師が行う評価であり、点数が低いほど介助量が少なく、自立度が高いという評価である。

入棟時の全体平均点は6.7点であり、重症者と言われる10点以上の割合が、全体の39%であった。

退棟時の全体平均点は3.7点であり、重症者の割合は16%に減少していた。

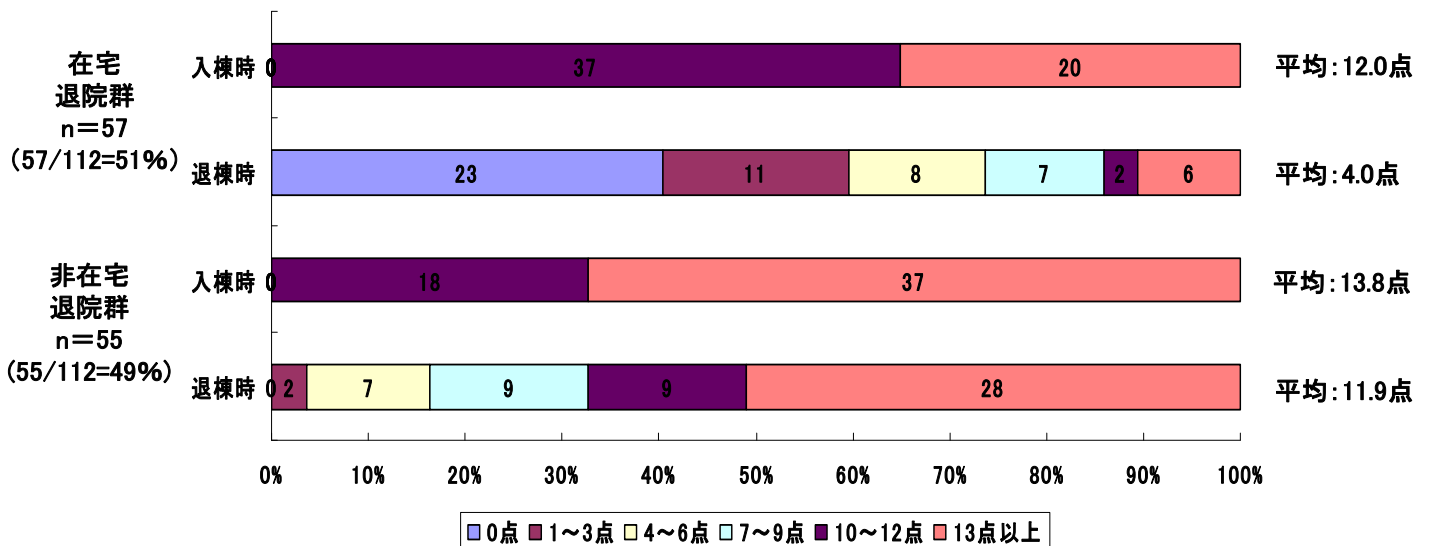
以下に退院先別に見た日常生活機能指標の変化を示す。

※グラフ内数字は実数を示す



* 入棟時、重症者だった97例[*2]を退院先別にスコアの変化を示す。

※グラフ内数字は実数を示す



入院時10点以上の重症者は112例であった。そのうち57例の方が在宅へ退院され、なかでも34例の方は3点以下と、ほとんど介助を要しない状態で退院された。また10点以上の方も家族の協力や社会資源の利用により8例在宅に戻られた。